

厚生労働科学研究費補助金
(子ども家庭総合研究事業)

科学的根拠に基づく快適な妊娠・出産の
ためのガイドラインの開発に関する研究

平成17年度 総括研究報告書

主任研究者 島田三恵子

平成18(2006)年3月

目 次

I 総括研究報告

快適な妊娠出産のためのガイドラインの開発に関する研究

－「健やか親子21」快適な妊娠出産の支援の中間評価－ 1

主任研究者 島田三恵子（大阪大学大学院医学系研究科教授）

II 分担研究報告書

1. 快適な産科医療を提供するための体制に関する基礎的研究 18

分担研究者 杉本充弘（日本赤十字社医療センター産科部長）

2. ガイドライン指標の信頼性・妥当性の検討に関する研究

－快適な妊娠出産育児ケアと周産期医療体制の全国調査の疫学的方法論－

. 50

分担研究者 縣俊彦（東京慈恵医科大学環境保健医学講座助教授）

（資料） 59

資料1 研究協力の照会文書

資料2 研究協力の回答文書

資料3 調査の手順の説明書

資料4 母親調査のお願い・説明文書

資料5 母親調査票

資料6 施設調査のお願い・説明文書

資料7 施設調査票

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
総括研究報告書

快適な妊娠出産のためのガイドラインの開発に関する研究
－「健やか親子21」快適な妊娠出産の支援の中間評価－

主任研究者 島田三恵子 大阪大学大学院医学系研究科教授
分担研究者 大橋一友 大阪大学大学院医学系研究科教授
研究協力者 神谷整子 みづき助産院院長
戸田律子 NPO 法人いいお産プロジェクト理事
縣 俊彦 東京慈恵会医科大学環境保健医学教室助教授
杉本充弘 日本赤十字社医療センター産科部長
村上睦子 日本赤十字社医療センター副看護部長
中根直子 日本赤十字社医療センター分娩室係長

研究要旨

「健やか親子 21」における快適な妊娠・出産のための支援の中間評価を行うことを目的とし、全国 47 都道府県から層化無作為抽出法により抽出した産後 1 か月の 3850 名の母親を対象として、妊娠・分娩・産後ケアや医療処置等に関する調査を自記式任意回答で行った。その結果、分娩時の医学的処置は平成 11 年と変化がなく、浣腸と剃毛は著明に減少し、夫立会分娩、分娩後 1 時間以内の母子接触および早期授乳が 5 割まで普及した。産後 1 か月時の母乳栄養が 6 % 程度上昇したが、入院中の人工乳の補足が約 3 倍に増加した点は今後の改善点である。産後 1 か月の心配事と育児支援ニーズは変わらず、母子の睡眠と授乳、皮膚に関する主な心配事であった。夜間診療の小児科医、24 時間電話相談、家庭訪問、出産施設での育児相談、父親の育児休業、柔軟な勤務体制、乳児保育などが望まれている。育児休暇後復帰予定の母親が増加しており、仕事と育児を両立する支援が更に必要とされる。妊娠中から出産までの満足していた人の割合は 80% で、平成 11 年より 3 % 程度低下し、再来希望は平成 17 年 77% と、5 % 程度低下していた。今後、各変数との関連を検討して、満足な妊娠出産ケアの抽出と共に、満足や再来希望が低下した要因を検討する必要がある。

分担研究者

大橋一友・大阪大学大学院医学系研究科
教授、
杉本充弘・日本赤十字社医療センター
産科部長、
縣俊彦・東京慈恵会医科大学環境保健医
学講座助教授

A. 研究目的

日本の合計特殊出生率は遂に 1.3 を割り、
労働力の減少や高齢者福祉負担の過重を招
き、経済活動や社会への影響は更に深刻さ
を増している。一方、女性が安心して子ど
もを産み健やかに育てる基礎となる少子化

対策として「健やか親子 21」が平成 12 年に始まってから 17 年で 5 年が経とうとしている。

そこで、妊娠出産育児の保健医療福祉サービスの利用者である女性側から評価を行い、主任研究者らが平成 11 年厚生科学研究で行った全国調査をベースライン値として「健やか親子 21」における快適な妊娠・出産のための支援の中間評価を行うことを目的として、本年度の研究を行った。

そして、日本の妊娠出産ケアに満足している人の割合の推移、改善点、及び快適な妊娠出産のケアの指標を明らかにする。また、快適な妊娠出産ケアを提供するために最低限必要なマンパワーとシステム等の医療体制についても併せて検討し（分担研究者杉本充弘）、来年度開発予定の日本における実現可能な快適な妊娠出産のためのガイドラインの基礎資料とする。

B. 研究方法

期間：平成 17 年 10 月～平成 18 年 1 月

対象：全国 47 都道府県から下記の層化無作為抽出法により、大学病院 25 カ所、一般病院 210 カ所、産婦人科診療所 155 カ所、助産所 64 カ所の合計 570 施設を抽出し、産科医療機関 4 種および全国 11 地方における平成 15 年の分娩数に比例配分して調査対象者数 10,000 名を割付けた（表 1）。平成 17 年 9 月～12 月に出産した産褥 1 か月の産褥婦 10,000 名に調査票を配布し、回答の得られた産褥 1 か月の母親 3850 名（回答率 38.5%、454 施設）を対象とした。

サンプリング方法：先ず、産科を標榜する有限母集団を誤差 5 %以内で推計するのに必要な対象母親数および施設数を疫学的

に算出した（分担研究者 縣俊彦）。対象者数は、平成 15 年分娩数から母親は 1,123,440 人を有限母集団想定の場合、必要母親数は推定誤差 5 %で母親 384 名、推定誤差 1 %で母親 9,523 名である。

具体的な対象母親数および 4 種医療機関の選定に当たっては、各層ごとの割当数決定の後、層化無作為抽出法の原理に基づき抽出した。

そこで、全国 11 地方（北海道、東北、北陸、関東、甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄）、および 4 種の医療機関（大学病院、一般病院、診療所、助産所）の平成 15 年の分娩数に比例配分して、母親調査票 10,000 部を割付けた（表 1）。

次いで、2003-2004 年版病院要覧から産科を閉鎖していない全国の大学病院 113 施設および一般病院 1,551 施設を、タウンページから産科を標榜する診療所 4091 カ所のうち個人名または閉鎖の診療所を除く 3,595 施設、日本助産師会理事会から承認を得て入手した会員名簿 519 カ所のうち個人名または閉鎖を除く助産所 395 施設を抽出した。

これらの施設に、産後 1 か月の母親を対象とする研究（以下、母親調査とする）の趣旨と協力依頼の照会文書（資料 1）を、産科・周産期施設の医療者を対象とする研究（以下、施設調査とする）の趣旨と一緒に送付した。その結果、母親調査への研究協力の回答が得られたのは、47 都道府県にまたがる大学病院 30 施設、一般病院 263 施設、診療所 251 施設、助産所 82 施設、合計 626 施設であった。この協力回答をした 626 施設の中から、大学病院 30 施設、一般病院 246 施設、診療所 212 施設、助産

所 82 施設、合計 570 施設を抽出した。

調査方法：調査協力の回答をした施設から無作為抽出された 570 施設の産科外来で、各施設の研究協力担当者が産後 1 か月検診に来所した褥婦に、調査説明文書（資料 4）を添えて母親調査票（資料 5）を施設別に割当てられた母親調査票が無くなるまで配布した。褥婦が無記名で自記式任意回答して、郵送返信により回収した。医学的な診断名や処置は母子手帳を参考にして対象者が記入した。

調査内容：平成 11 年厚生科学研究で主任研究者らが行った全国調査をベースライン値として比較するため、前回調査の調査票を精選して数カ所の設問を加減した他は、前回と同一の設問項目・内容を用いた。

その結果、母親調査票は妊娠・分娩経過や背景等に関する 11 項目、妊娠中のケアに関する 6 項目、分娩時のケアや処置に関する 14 項目、産後の母子ケアに関する 7 項目、退院後の育児生活や満足度に関する 9 項目、合計 47 項目から構成されている（資料 5）。

解析方法：全施設の各変数の値は、重みづけをした解析を加え、平成 11 年の筆者らの同様の全国調査との比較に際し、頻度の比較には χ^2 検定、連続変数の比較には unpaired t-test を用いた。統計解析には SAS ver.9.0 を使用した。

（倫理面への配慮）

無記名で自記式任意回答で郵送返信とし、対象者の特定や回答強制を回避するように配慮した。

C. 研究結果

産褥 1 か月の母親 3850 名から回答の得られた（回答率 38.5%）。母親調査票を送

付した 10,000 部（570 カ所）のうち、大学病院 213 名（25 施設）、一般病院 1914 名（210 施設）、診療所 1479 名（155 施設）、助産所 244 名（64 施設）の合計 3850 名（454 施設、施設別回答率 79.7%）であった（表 2）。

1、属性・背景

出産時の平均年齢 30.5 ± 4.6 歳、初産婦 1979 名、経産婦 1871 名であった。分娩時の在胎週数は平均 38.9 ± 1.9 週、出生体重は平均 $3035.0 \pm 426.4\text{g}$ であった（表 3）。

2、妊娠・分娩経過

妊娠および分娩経過は差がないが、帝王切開術実施率が 13.4%から 15.8%（大学病院 33%、一般病院 19%、診療所 11%、助産所 0%）に、2%上昇していた。自然分娩は変化なく 69%前後で、大学病院 54%、一般病院 67%、診療所 71%、助産所 98% であった。（表 4）

妊娠中の支援・ケアに関しては著明な変化が認められなかった。（表 5）

3、分娩時の医療処置

会院切開（大学病院 61%、一般病院 53%、診療所 56%、助産所 4%）、無痛分娩（大学病院 1.4%、一般病院 0.7%、診療所 4.3%、助産所 0%）、誘発分娩（大学病院 10%、一般病院 9%、診療所 9%、助産所 0%）、陣痛促進（大学病院 11%、一般病院 13%、診療所 13%、助産所 0.4%）、点滴（大学病院 83%、一般病院 71%、診療所 67%、助産所 3%）、CTG 持続装着（大学病院 246%、一般病院 24%、診療所 22%、助産所 1%）など医学的処置は変化がなかった。しかし、浣腸は 40%から 24%（大学病院 16%、一般病院 18%、診療所 31%、助産所 8%）に、剃毛は 60%から 43%（大学病

院 50%、一般病院 39%、診療所 46%、助産所 2%) に減少していた。(表 6)

4、分娩中の支援・ケアは、夫立ち会い分娩が 37%から 53% (大学病院 37%、一般病院 49%、診療所 54%、助産所 82%) に増加していた。精神的なサポートはその実施率に変化がなく、80 から 90%行われていた。(表 7)

5、産後の母子支援・ケア

分娩後 1 時間以内の母子接触が約 80% (大学病院 62%、一般病院 77%、診療所 81%、助産所 96%)、1 時間以内の早期授乳が約 50% (大学病院 41%、一般病院 51%、診療所 46%、助産所 87%) に上昇していた。入院中から母乳のみが 20% (大学病院 16%、一般病院 23%、診療所 11%、助産所 55%) にやや上昇しているが、一方、入院中の人工乳の補足が 30%から 43% (大学病院 36%、一般病院 41%、診療所 52%、助産所 11%) に増加していた。

1 か月時の栄養法は母乳栄養が 46%から 52% (大学病院 41%、一般病院 50%、診療所 50%、助産所 79%) にやや上昇していた。(表 8)

6、産後 1 か月時の母子の心配事

どの項目も平成 11 年との差がないが、産後の母親は睡眠不足や疲労感が 67%、乳房のトラブルが約 25%、放棄感 14%であった。母乳量の心配が 24%、皮膚のトラブル 35%、児の泣き睡眠に関する心配事が 24%であった。(表 9) 施設較差も認められなかった。

7、産後 1 か月の子育て支援ニーズ

どの項目も平成 11 年との差がないが、夜間診療を行う小児科医 54%、働いていなくても預けられる一時保育 37%、24 時間電話相談が 23%、乳房マッサージもしてくれる

家庭訪問 22%、出産施設での育児相談 19%であった。職業環境では、父親の育児休業 21%、柔軟な勤務体制 21%、乳児保育など 17%、乳児を持つ家庭の優遇税制 70%であった。

産後 2 か月から 3 か月の間期に、安心して楽しく育児できるようなサービスとしては、夜間診療を行う小児科医 61%、働いていなくても預けられる一時保育 43%、出産施設からの情報提供 37%、母乳育児外来 33%、24 時間電話相談 24%などであった。

職業環境では、父親の柔軟な勤務体制 36%を母親が希望していた。(表 10)

8、退院後の育児環境

いずれの項目も平成 11 年との差がないが、57%が自分の実家に退院しており、産後の家事育児の手伝いは、主に親が手伝っており 60%から 76%に増加する一方で、夫が平成 11 年の 35%から平成 17 年には 18%に減少していた。育児の相談者も主に親であり、67%程度は解決していた。妊娠出産を機に仕事を辞めた母親が 29%いるが、育児休暇後復帰予定の母親が平成 11 年 15%から平成 17 年には 22%に増加し、妊娠前から専業主婦である性が 44%から平成 17 年は 35%にやや減少していた。(表 11)

9、満足度と再来希望

妊娠中のケアに「満足」だったのは 46% (大学病院 37%、一般病院 39%、診療所 51%、助産所 78%)、分娩時のケアに「満足」だったのは 57% (大学病院 55%、一般病院 52%、診療所 57%、助産所 90%)、産後のケアに「満足」だったのは 54% (大学病院 43%、一般病院 48%、診療所 57%、助産所 86%) であり、妊娠中から出産までのケア全体的に見て「満足」「やや満足」を

併せて80%(大学病院76%、一般病院77%、診療所83%、助産所94%)で、平成11年より3%程度低下していた。次回も同一施設で分娩したいかの再来希望は平成11年85%であったが、平成17年77%(大学病院61%、一般病院72%、診療所82%、助産所95%)と、5%程度低下していた。

同じ医師が継続的に診察しているのは63%(大学病院42%、一般病院49%、診療所85%)であったのに対し、助産師が継続的ケアを行っていたのは29%(大学病院24%、一般病院21%、診療所30%、助産所87%)であった。

D. 考察

本研究は、平成11年の主任研究者らが行った同様の全国調査と比較して、5年前に健やか親子21開始後、快適な妊娠出産のための支援がどの程度提供されているか、妊娠出産保健医療福祉サービスを受ける出産した母親を対象として中間評価を行い、更に、来年度には母親達にとって満足で快適なお産とは何かの指標を抽出しようとするものである。

母集団は平成11年と同様の層化抽出法による疫学的サンプリングを行い、回答者の出産施設の構成、属性、妊娠分娩経過等の背景の割合等もほぼ同等である。

健やか親子開始直前の平成11年と比較して、特記すべきことは、帝王切開術実施率が15.8%になり2%上昇したこと、自然分娩は変化なく約7割前後である。これは最近、骨盤位や前回帝王切開などは経膈分娩のリスクを避けて帝王切開をする傾向にあることが影響していると考えられる。

分娩時の医療処置は平成11年から実施

率に変化がないが、浣腸と剃毛は著明に減少していた。これは不必要な処置が減少した典型例といえる。点滴ルート確保は減少していないが、分娩経過において必要性のあったものか、ルチンに実施されたかは不明である。無痛分娩は僅か2%で、日本の無痛分娩が遙かに低いのは、主として産痛に対する忍耐力や痛みに対処する文化に因ると考えられるが、産科医や麻酔科医の医師不足の関連も推測される。

また、夫立ち会い分娩が約5割、分娩後1時間以内の母子接触が約8割、1時間以内の早期授乳が5割まで普及して来たことである。施策により、母乳育児、母子関係や、夫の分娩・育児参加が見直されて来たことの影響も考えられる。

一方、1か月時の母乳栄養が6%程度上昇したが、入院中の人工乳の補足が約3倍に増加した点は今後の改善点であろう。

母子の心配事はどの項目も平成11年との差がないが、産後1か月の心配事の多くは母子共に睡眠と授乳、皮膚に関する事であった。産後の1ヶ月間は母乳育児がうまく行けば産後の母親は精神的に急に楽になる傾向があるので、退院後、育児不安の軽減のためにも乳房管理も含めた母乳育児外来等でのフォローが必要とされる。

産後1か月の子育て支援ニーズは変わらず、夜間診療の小児科医、24時間電話相談、家庭訪問、出産施設での育児相談などを望んでおり、いざという時に相談できる所があるという安心が満足に繋がると考えられる。職業環境は父親の育児休業、柔軟な勤務体制、乳児保育などが望まれている。

向こう産後2か月から3か月の間期にも同様のニーズを挙げているが、希望する率

が高い。これは、産後1か月までは実家や親が家事育児を手伝ってくれたが、1か月過ぎると、夫の援助が必要となって来るためと推測される。しかし、今回の調査では産後1か月間の夫による家事育児の手伝いが35%から平成17年には18%に減少していた。

妊娠出産を機に仕事を辞めた母親が3割いるが、育児休暇後復帰予定の母親が平成11年15%から平成17年には22%に増加しており、仕事と育児を両立する支援が更に必要とされる。

妊娠中、分娩時、産後のケアに「全く満足」だったのは46%～57%であった。妊娠中から出産までのケア全体的に見て「満足」「やや満足」を併せると80%で、平成11年より3%程度低下していた。次回も同一施設で分娩したいかの再来希望は平成11年85%から、平成17年77%と、5%程度低下していた。異常分娩の場合、満足感が低い傾向があるが、今回の対象者は平成11年に比べて特に異常分娩が多くはなかった。今回の調査で、同じ医師が継続的に診察しているのは診療所以外では50%未満であり、助産師が継続的ケアを行っていたのは助産所以外では30%未満であった。継続ケアが満足感の要因として報告されているが、これとの関連も検討する必要がある。今後、各変数との関連を検討して、満足な妊娠出産ケアの抽出と共に、満足または再来希望が低下した要因を検討する必要がある。

今後、今回の結果を踏まえて、快適な妊娠出産のケアの指標を抽出して明らかにする予定である。

E. 結論

1、分娩時の医学的処置は変化がなく浣腸と剃毛は著明に減少した。夫立会分娩、分娩後1時間以内の母子接触および早期授乳が5割まで普及した。

2、1か月時の母乳栄養が6%程度上昇したが、入院中の人工乳の補足が約3倍に増加した点は今後の改善点である。

3、産後1か月の心配事と育児支援ニーズは変わらず、母子の睡眠と授乳、皮膚に関する主な心配事であった。夜間診療の小児科医、24時間電話相談、家庭訪問、出産施設での育児相談、父親の育児休業、柔軟な勤務体制、乳児保育などが望まれている。育児休暇後復帰予定の母親が増加しており、仕事と育児を両立する支援が更に必要とされる。

4、妊娠中から出産までの満足していた人の割合は80%で、平成11年より3%程度低下し、再来希望は平成17年77%と、5%程度低下していた。

今後、各変数との関連を検討して、満足な妊娠出産ケアの抽出と共に、満足または再来希望が低下した要因を検討する必要がある。

F. 研究発表

- | | |
|---------|----|
| 1. 論文発表 | なし |
| 2. 学会発表 | なし |

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許取得 | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他 | なし |

表1 母親調査票の配布数と返信数

調査地域		母親調査		大学病院		一般病院		診療所		助産院	
地方	県名	配布数	返信数	配布数	返信数	配布数	返信数	配布数	返信数	配布数	返信数
北海道	1道	398	122	50	18	210	80	125	22	13	2
	青森	235	78	30	6	120	43	75	20	10	9
	岩手	80	29	25	8	35	21	20	0	0	0
	宮城	192	111	0	0	97	44	90	63	5	4
	秋田	35	10	0	0	35	10	0	0	0	0
	山形	60	25	10	6	35	14	15	5	0	0
	福島	105	36	25	9	35	14	45	12	0	1
東北	6県	707	289	90	29	357	146	245	100	15	14
東京	1都	879	332	110	41	500	196	180	52	89	43
	茨城	304	64	0	0	70	13	205	40	29	11
	栃木	225	82	0	0	90	25	125	53	10	4
	群馬	225	65	0	0	120	24	105	41	0	0
	埼玉	458	178	40	10	290	144	110	13	18	11
	千葉	397	150	20	8	115	27	260	114	2	1
	神奈川	719	269	0	2	360	110	280	119	79	38
関東	6県	2328	808	60	20	1045	343	1085	380	138	65
	富山	51	38	10	5	5	5	30	24	6	4
	石川	113	33	10	6	73	18	20	0	10	9
	福井	87	35	0	0	7	4	80	31	0	0
	長野	179	75	20	8	139	54	20	13	0	0
	新潟	170	91	0	0	60	38	105	52	5	1
	山梨	45	23	20	10	15	5	10	8	0	0
甲信越	6県	645	295	60	29	299	124	265	128	21	14
	静岡	410	184	50	23	195	81	150	70	15	10
	愛知	521	211	20	0	310	131	180	69	11	11
	岐阜	213	71	10	2	95	33	100	31	8	5
	三重	104	33	20	0	10	5	70	24	4	4
東海	4県	1248	499	100	25	610	250	500	194	38	30
	滋賀	60	22	0	0	20	7	40	15	0	0
	京都	292	124	10	4	180	72	97	47	5	1
	大阪	930	367	125	11	465	186	298	143	42	27
	兵庫	340	170	20	10	120	53	185	100	15	7
	奈良	57	21	0	0	10	2	40	15	7	4
	和歌山	16	9	0	0	5	0	0	0	11	9
近畿	6県	1695	713	155	25	800	320	660	320	80	48
	鳥取	75	16	0	0	40	15	35	1	0	0
	島根	80	19	20	3	40	15	20	1	0	0
	岡山	164	44	0	0	94	39	60	1	10	4
	広島	167	79	0	0	125	56	40	21	2	2
	山口	117	62	0	0	40	28	70	31	7	3
中国	5県	603	220	20	3	339	153	225	55	19	9
	徳島	110	38	15	6	10	5	85	27	0	0
	香川	69	39	0	0	65	38	1	1	3	0
	愛媛	105	45	0	0	45	22	55	20	5	3
	高知	38	19	0	1	5	7	30	11	3	0
四国	4県	322	141	15	7	125	72	171	59	11	3
	福岡	475	175	5	0	155	51	300	115	15	9
	佐賀	41	4	0	0	6	0	35	4	0	0
	長崎	108	49	0	0	60	25	42	21	6	3
	熊本	70	57	0	0	70	56	0	0	0	1
	大分	118	30	0	0	30	11	75	16	13	3
	宮崎	110	23	20	3	90	20	0	0	0	0
	鹿児島	124	62	10	4	104	54	0	4	10	0
九州	7県	1046	400	35	7	515	217	452	160	44	16
沖縄	1県	129	31	15	9	94	13	20	9	0	0
発送合計	返送合計	10000	3850	710	213	4894	1914	3928	1479	468	244
最終割付率	回収率	100.0%	38.5%	7.1%	30.0%	48.9%	39.1%	39.3%	37.7%	4.7%	52.1%

	平成17年 (名)		平成11年 (名)	
大学病院	213	5.5%	400	10.0%
一般病院	1914	49.7%	1769	44.4%
診療所	1479	38.4%	1487	37.3%
助産所	244	6.3%	330	8.3%
無回答			81	
合計	3850	100.0%	4068	100.0%

	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)	
年齢	30.5±4.6 歳		29.4±4.4 歳	
経産回数	初産婦	1979 名 (51.4%)	2041名 (50.4%)	
	経産婦	1871 名 (48.6%)	2010名 (49.6%)	
妊娠週数	38.9±2.0 週		39.0±2.1週	
出生児体重	3035.0±426.4 g		3042.8±410.9g	
入院日数	7.2±4.6 日		—	

	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)		
妊娠中の経過					
	特に異常なし	3771	98.0%	3027	74.3%
	妊娠性高血圧症	140	3.6%	164	4.0%
	妊娠中、骨盤位	165	4.3%	272	6.7%
	胎児発育遅延	288	7.5%	257	6.3%
	胎盤の異常	52	1.4%	118	2.9%
	羊水の異常	98	2.6%	41	1.0%
	その他の異常	773	20.1%	649	15.9%
分娩経過					
	特に異常なし	2531	65.8%	2827	69.4%
	微弱陣痛	464	12.1%	411	10.1%
	胎児心音異常	53	1.4%	95	2.3%
	出血多量	356	9.2%	255	6.3%
	その他の異常	351	9.1%	305	7.5%
分娩様式					
	自然分娩	2685	68.7%	2833	69.6%
	吸引分娩	286	8.0%	299	7.1%
	鉗子分娩	30	0.8%	87	0.9%
	帝王切開	603	15.8%	547	13.4%
	骨盤位分娩	139	3.6%	157	3.9%

表5 妊娠中の支援・ケア

12項目	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)	
妊婦健診と同じ分娩施設	3010	78.6%	3338	80.9%
異なる施設	819	21.4%	787	19.1%
異なる施設で分娩する理由				
里帰り	494	60.8%	509	64.8%
経済的理由	9	1.1%	8	1.0%
医学的理由で他院紹介	126	15.5%	93	11.8%
受けたいサービスと違った	28	3.5%	48	6.8%
その他	155	19.1%	127	16.2%
医療者の自己紹介 あり	1620	43.2%	1895	47.4%
顔を見て話す	3627	94.9%	3905	95.4%
質問しやすい雰囲気	3211	84.1%	3904	88.0%
心身の理解				
はい	2907	75.9%	-	-
いいえ	137	3.6%	-	-
どちらともいえない	787	20.5%	-	-
出産方針の説明				
はい	3008	79.0%	3040	75.1%
いいえ	166	4.4%	254	6.3%
説明なし	636	16.7%	755	18.6%
出産費用の説明				
はい	2664	70.2%	2686	66.2%
いいえ	298	7.9%	440	10.8%
説明なし	831	21.9%	933	23.0%
健診後すっかり安心				
はい	2761	72.6%	3148	76.9%
いいえ	137	3.6%	836	20.4%
どちらともいえない	905	23.8%	110	2.7%
バースプラン相談者				
産科医	212	5.8%	311	7.6%
助産師	754	20.5%	566	13.8%
保健師・看護師	80	2.1%	195	4.7%
助産師か看護師か不明	89	2.4%	116	2.8%
夫	1379	37.6%	1618	39.4%
親・姉妹	454	12.4%	486	11.8%
友人	242	6.6%	342	8.3%
誰もいなかった	44	1.2%	46	1.1%
どんなお産したいか考えたことない	383	10.4%	502	12.1%
妊娠中のケアの満足度				
満足	1744	46.1%	-	-
やや満足	1057	27.9%	-	-
中間	839	22.2%	-	-
やや不満足	128	3.4%	-	-
不満足	18	0.5%	-	-

表6

分娩時の医療処置

10項目	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)	
会陰切開	1708	54.4%	2000	52.1%
浣腸	762	23.8%	1569	40.0%
剃毛	1405	42.7%	2383	60.0%
無痛分娩	79	2.1%	87	2.1%
陣痛誘発	325	8.4%	293	7.1%
陣痛促進	473	12.3%	480	11.6%
点滴	2273	68.1%	2676	67.3%
CTG 持続的装着	714	22.8%	631	18.5%
CTG必要性の説明で納得	2352	71.5%	2738	72.0%
納得できなかった	22	0.7%	30	0.8%
説明なし	918	27.9%	1033	27.2%
その他分娩時処置	195	5.1%	235	5.7%

表7 分娩中の支援・ケア

18項目	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)	
出産施設選択理由				
近い	1884	49.0%	1991	48.0%
好評	1371	35.6%	1790	43.1%
前回良かった	955	24.8%	1196	28.8%
大きい	863	22.4%	1018	24.5%
医療者の対応がいい	736	19.1%	1102	26.5%
母児同室	712	18.5%	639	15.4%
アメニティ	672	17.5%	782	18.8%
お産のやり方	467	12.1%	595	14.3%
有名	363	9.4%	413	9.9%
経済的	206	5.4%	175	4.2%
特に理由なし	49	1.3%	48	1.2%
その他の理由	764	19.9%	805	19.4%
傍に付き添った医療者				
助産師	2098	62.1%	2272	56.3%
助産師か看護師か不明	466	13.8%	704	17.5%
看護師	417	12.3%	612	15.2%
助産学生	157	4.6%	74	1.8%
産科医	15	0.4%	12	0.3%
誰か不明	18	0.5%	20	0.5%
その他	113	3.3%	250	6.2%
誰もいなかった	96	2.8%	19	2.3%
その人に居て欲しかったか				
はい	607	18.9%	782	20.3%
必要時のみいて欲しかった	629	19.6%	535	13.9%
十分そばにいて安心	1819	56.7%	2349	60.9%
居て欲しくない	32	1.0%	23	0.6%
家族に居て欲しい	108	3.4%	158	4.1%
誰もいて欲しくなかった	14	0.4%	13	0.3%
陣痛室でそばにいた医療者以外の 人				
夫	2419	63.0%	2312	56.6%
親	1191	31.0%	1152	27.7%
姉妹	160	4.2%	171	4.1%
友人	32	0.8%	24	0.6%
その他の人	224	5.8%	219	5.3%
誰もいなかった	486	12.7%	992	23.9%
医療者側の理由で入れず	32	0.8%	149	3.9%

表7 つづき 分娩中の支援・ケア

18項目	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)	
分娩時立ち会い(医療者以外)				
夫	2024	52.6%	1521	36.9%
親	465	12.1%	409	9.8%
姉妹	89	2.3%	70	1.7%
友人	20	0.5%	12	0.3%
その他	174	4.5%	154	3.7%
誰もいなかった	1572	40.9%	2380	57.3%
立ち会い不可理由				
産婦が希望せず	537	38.0%	1039	44.4%
その人が希望せず	114	8.1%	191	8.1%
その人が多忙	144	10.2%	219	9.3%
医療者側の理由で入れず	228	16.2%	497	21.3%
理由不明	20	1.4%	58	2.5%
その他	368	26.1%	338	14.4%
分娩介助者				
産科医	1734	46.1%	1522	39.8%
助産師	1115	29.7%	1236	31.8%
医師立会で助産師	714	19.0%	913	23.5%
助産学生	63	1.7%	31	0.8%
その他	14	0.4%	30	0.8%
不明	120	3.2%	160	4.1%
仰臥位以外姿勢の勧め	2037	60.2%	2408	62.1%
産痛緩和	1959	57.7%	2432	62.7%
終始自由姿勢	1994	55.6%	2463	63.7%
娩出時、仰臥位	3367	91.9%	3664	91.6%
意志・希望を尊重してくれた	2998	86.7%	3452	88.5%
気持ちの理解し、安心させた	3081	88.8%	3721	93.5%
分娩の経過の解りやすい説明				
はい	3262	86.3%	3610	89.9%
理解できず	308	8.1%	265	6.6%
説明なし	212	5.6%	143	3.6%
プライバシー配慮	3271	94.9%	3715	97.2%
分娩直後の児との対面	3198	91.6%	3832	93.2%
分娩時、十分尊重されたと感じた	3264	90.6%	-	
分娩時のケアの満足度				
満足	2156	56.7%	-	
やや満足	924	24.3%		
中間	50	13.1%		
やや不満足	183	4.8%		
不満足	42	1.1%		

表8

産後の母子支援・ケア

5項目	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)	
母児接触				
分娩後1時間以内	2995	78.8%	2720	69.0%
分娩後2時間以内	152	4.0%	178	4.5%
歩行開始から	142	3.7%	298	7.6%
翌日	270	7.1%	422	10.7%
その他	242	6.4%	325	8.2%
早期授乳				
分娩後1時間以内	1925	50.9%	1522	39.1%
分娩後2時間以内	269	7.1%	245	6.8%
歩行開始から	283	7.5%	433	11.1%
翌日	796	21.0%	1059	28.0%
その他	510	13.5%	589	15.0%
乳補足				
母乳のみ	624	20.0%	574	14.9%
白湯	59	1.9%	191	4.8%
糖水	814	26.1%	1752	44.4%
ミルク	1337	42.9%	1181	29.9%
不明	283	9.1%	249	15.0%
一カ月栄養法				
母乳栄養	1966	51.6%	1832	45.7%
母乳主の混合栄養	1028	27.0%	1080	26.9%
人工乳主の混合栄養	701	18.4%	878	21.9%
人工栄養	115	3.0%	205	5.1%
どちらか不明	4	0.1%	15	0.4%
産後ケアの満足度				
満足	2043	53.5%	-	-
やや満足	998	26.1%	-	-
中間	582	15.2%	-	-
やや不満足	157	4.1%	-	-
不満足	38	1.0%	-	-

表9

産後1か月の母子の心配事

平成17年 (n=3850) 平成11年 (n=4068)

母親の心配事				
母睡眠不足疲労	2573	66.9%	2660	65.4%
孤独焦り	229	6.0%	123	3.0%
放棄感	567	14.8%	508	12.5%
育児自信喪失	511	13.3%	510	12.5%
乳房トラブル	945	24.6%	802	19.7%
会陰痛み	579	15.1%	431	10.6%
悪露	588	15.3%	560	13.8%
尿失禁	235	6.1%	104	2.6%
その他の母体心配事	578	15.0%	311	7.6%
児の心配事				
児不眠	902	23.5%	928	22.8%
児の泣き	608	15.8%	594	14.6%
母乳量の心配	1306	34.0%	1384	34.0%
人工乳補足量	527	13.7%	547	13.4%
嘔吐	497	12.9%	457	11.2%
便	513	13.3%	604	14.8%
皮膚	1326	34.5%	1422	35.0%
体重	621	16.2%	518	12.7%
育児法の保証	565	14.7%	509	12.5%
その他心配事	335	8.7%	206	5.1%
育児環境について				
夫家族の非協力	205	5.3%	132	3.2%
相談場専門家なし	147	3.8%	114	2.8%
仕事両立	178	4.6%	114	2.8%
保育園入園の可能性	292	7.6%	177	4.4%
その他育児環境心配	315	8.2%	121	3.0%

表10

産後1か月の子育て支援ニーズ

平成17年 (n=3850) 平成11年 (n=4068)

希望する子育て中のサービス				
夜間診療小児科医	2086	54.2%	2210	54.3%
24時間電話相談	866	22.5%	1145	28.2%
産褥入院	215	5.6%	253	6.2%
育児相談電話リスト	363	9.4%	599	14.7%
母子手帳での情報提供	641	16.7%	668	16.4%
出産施設での育児相談	739	19.2%	823	20.2%
必要回の家庭訪問	621	16.2%	641	15.8%
乳健の育児相談	830	21.6%	974	23.9%
保育幼稚園の育児相談	162	4.2%	234	5.8%
産褥ヘルパー	544	14.1%	543	13.3%
家事ヘルパー	471	12.3%	457	11.2%
乳房マッサージ兼家庭訪問	850	22.1%	782	19.2%
働いていなくても利用できる一時預かり保育	1423	37.0%	1575	38.7%
乳児保育・延長保育・病児保育	653	17.0%	610	15.0%
駅近くの保育園	118	3.1%	137	3.4%
職場内保育園	561	14.6%	436	10.7%
育児代員配置	348	9.1%	306	7.5%
育休中の給料保証	599	15.6%	474	11.7%
育休後希望部署への配置	221	5.8%	175	4.3%
育休後研修・職場情報提供	89	2.3%	78	1.9%
父親の育児休業	823	21.4%	782	19.2%
柔軟な勤務態勢	790	20.5%	586	14.4%
社宅公舎優先的入居	190	4.9%	169	4.2%
優遇税制・経済支援	2656	69.1%	2149	52.8%
柔軟な乳健時間	482	12.5%	421	10.3%
柔軟な予防接種時間	895	23.3%	1049	25.8%
産後2～3ヶ月に希望するサービス				
夜間診療小児科医	2340	60.9%	-	-
ベビーシッター紹介	300	7.8%	-	-
児童民生委員	92	2.4%	-	-
出産施設からの情報提供	1439	37.4%	-	-
24時間電話相談	1095	28.5%	-	-
母乳育児外来	1248	32.5%	-	-
誰でも参加可能な施設での育児相談	1099	28.6%	-	-
出産施設からの電話訪問	619	16.1%	-	-
必要回家庭訪問	897	23.3%	-	-
自由参加の施設での育児サークル	1145	29.8%	-	-
父親の交流場	231	6.0%	-	-
インターネットによる育児相談	396	10.3%	-	-
働いていなくても利用できる一時預かり保育	1639	42.6%	-	-
乳児優先入園制度	795	20.7%	-	-
父親の育児休業	1140	29.7%	-	-
父親の柔軟な勤務時間	1380	35.9%	-	-

表11 退院後の育児環境と支援者

6項目	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)		
退院先					
	自宅	1476	38.8%	1580	38.9%
	自分の実家	2160	56.9%	2319	57.0%
	夫の実家	134	3.5%	142	3.5%
	その他	30	0.8%	25	0.6%
産後手伝い					
	夫	611	18.0%	1426	35.4%
	親	2587	76.0%	2425	60.2%
	姉妹	54	1.6%	42	1.0%
	誰もいない自分だけで	110	3.2%	93	2.3%
	その他	39	1.2%	30	0.7%
仕事					
	産後6週以内に勤務	79	2.1%	68	1.7%
	産休後復帰予定	270	7.1%	315	8.0%
	育児休暇後復帰予定	816	21.5%	587	14.8%
	妊娠出産で退職	1117	29.4%	1027	25.9%
	求職中	114	3.0%	108	2.7%
	専業主婦	1312	34.5%	1760	44.4%
	その他	96	2.5%	96	2.4%
育児相談者					
	医師	45	1.2%	90	2.3%
	助産師	434	11.8%	498	12.6%
	看護師	51	1.4%	92	2.3%
	保健師	34	0.9%	65	1.6%
	助産師か看護師か不明	98	2.7%	132	3.4%
	夫	563	15.3%	544	13.8%
	親	1771	48.2%	1818	46.1%
	姉妹	179	4.9%	210	5.3%
	友人	281	7.6%	258	6.5%
	誰もいなかった	25	0.7%	13	0.3%
	特に困らなかった	167	4.5%	202	5.1%
	その他	28	0.8%	18	0.5%
相談結果					
	解決した	2517	66.9%	2602	68.3%
	いいえ	119	3.2%	85	2.2%
	かえって心配になった	33	0.9%	13	0.3%
	分からない	303	8.1%	234	6.1%
	相談せず	789	21.0%	876	23.0%
相談結果満足度					
	はい	2299	76.9%	2431	82.7%
	いいえ	85	2.8%	463	15.8%
	どちらともいえない	607	20.3%	44	1.5%

表12

全体的な満足度・継続ケア

4項目	平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4068)		
妊娠からお産ケアの全体的満足感	満足	3037	80.4%	3215	83.6%
	満足できなかった	89	2.4%	48	12.0%
	どちらともいえない	651	17.2%	581	15.1%
次回も同一施設で出産希望	はい	2926	76.6%	3393	85.2%
	いいえ	126	3.3%	65	16.0%
	どちらとも言えない	768	20.1%	525	13.2%
同一医師による継続診療	はい	2402	63.5%	-	
	いいえ	1381	36.5%		
同一助産師によるケア	はい	1093	29.1%	-	
	いいえ	2665	70.9%		

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

快適な産科医療を提供するための体制に関する基礎的研究

分担研究者 杉本充弘 日本赤十字社医療センター産科部長
研究協力者 村上睦子 日本赤十字社医療センター副看護部長
中根直子 日本赤十字社医療センター分娩室係長
縣 俊彦 東京慈恵会医科大学環境保健医学講座助教授
島田三恵子 大阪大学大学院医学系研究科教授
戸田律子 NPO 法人いいお産プロジェクト理事
神谷整子 みづき助産院院長

研究要旨

快適な妊娠出産のケアを提供するために最低限必要なマンパワーとシステム等の医療体制検討する目的とし、全国 47 都道府県に在る種々の産科・周産期の医療機関から層化抽出した 473 施設で勤務する産科医責任者および助産ケアの責任者を対象として、自記式調査票により医療体制やマンパワー、快適さ・産婦の主体性や選択を尊重する姿勢を間接的に評価する医療処置や診療システム、および快適と想定される妊娠出産ケアや出産環境に関して調査した。その結果、産科医の労働時間は週平均 61.0 時間(range 21~104)hr/週、年間休暇平均 50.4 日(range 0~134)日であった。産科医の当直回数は月平均 16.7 回、一般病院では月平均 6.6 回、診療所では 21.7 回、96.9%の産科医は当直明けで継続して勤務していた。一方、助産師の労働時間は週平均 39.6 時間(range 16~60)hr/週、年間休暇平均 104.2(range 42~134)日であった。更に必要とするマンパワーは対象施設における分娩数の割合（全国の 14.8%）から試算すると、全国で更に常勤産科医 2,720 名、助産師 6,428 名、看護師 1,955 名が必要であると推計される。

A. 研究目的

出産施設の閉鎖が続く中で、快適な妊娠出産のケアを提供するために最低限必要なマンパワーとシステム等の医療体制の現状を明らかにする。これにより、快適で安全で産科医療を提供するための条件と補完すべき体制を検討する基礎資料とする。

B. 研究方法

期間：平成 17 年 10 月～12 月

対象：下記の方法で抽出された、産科または周産期を標榜する 473 施設の産科の医師の責任者（産科部長、産婦人科教授、診療所院長）、および助産ケアの責任者（産科または周産期部門の助産・看護師長、助産院院長）を対象とした。

サンプリング方法：まず、産科を標榜する有限母集団（全施設数が既知）を誤差 5% 以内で推計するのに必要な施設数を疫学的に算出した（分担研究者 縣俊彦）。全施設